

第 11 回通機会総会議事録（氏名削除版）

日時：2022 年 6 月 25 日（土） 14:00～15:50

場所：Zoom によるオンライン開催

出席者：32 名

配布資料：

資料 p. 1 第 11 回通機会総会（式次第）

資料 p. 2-p. 3 第 10 期活動報告

資料 p. 4-p. 5 第 10 期決算報告 案

資料 p. 6 第 10 期（2018-2021 年度）通機会予算（改訂版）

資料 p. 7 第 10 期（2018-2021 年度）通機会決算案

資料 p. 8 会計監査報告

資料 p. 9 会計監査報告

資料 p. 10 会則改定について

資料 p. 11 第 11 期役員案

資料 p. 12 通機会の今後と第 11 期活動計画

資料 p. 13 第 11 期（2022-2025 年度）通機会予算案

1. 開会の辞

M 副会長より通機会総会開会の挨拶がなされた。

2. 議長選出

M 副会長より、議長として M 学内幹事が提案され、承認された。

3. 第 10 期会長挨拶

N 会長より退任の挨拶がなされた。

4. 第 10 期活動報告

M 副会長より、資料に基づき第 10 期活動報告の説明が行われ、承認された。

5. 第 10 期会計報告

会計担当の K 学内幹事より、資料に基づき第 10 期会計報告の説明がなされた。

6. 第 10 期監査報告

U 監査と T 監査より、資料に基づき収支決算に問題がないことが報告され、第 10 期の会計報告と監査報告が承認された。

7. 会則改正

M 副会長より、資料に基づき通機会会則第 7 条の改正、第 10 条と第 13 条の削除の提案がなされ、承認された。

8. 役員改選

通機会会則第 8 条に基づく会長と監査の改選が行われた。T 学内幹事より、第 11 期の通機会会長として小柳氏、監査として瀧澤氏と植村氏とすることが提案され、承認された。

(第 8 条 会長及び監査は総会において会員中より選出される)

9. 第 11 期会長挨拶

K 新会長より会長就任の挨拶がなされた。%学内幹事より、通機会会則第 9 条に基づいて、副会長を M 氏と T 氏、学内幹事を資料通りにすることが提案され、承認された。

(第 9 条 副会長及び幹事は会長が委嘱する)

10. 通機会の今後と第 11 期活動計画

T 新副会長より、資料に基づき通機会の今後と第 11 期活動計画について説明がなされた。また、今後の活動の主体となるグループ会委員会(仮称)では、特に実務を行う意思のある方を募集している旨報告がなされた(連絡先: restart@tsukikai.mce.uec.ac.jp)。資料の提案 2 の補足情報について、議題には最小限のことを書くべきでという観点から文言を削除する提案が参加者からなされた。議論の結果、資料「通機会の今後と第 11 期活動計画」から「<補足情報>」の文言を削除し、その他の部分は資料の原案通り承認された。

また、関連して以下のような意見・質問がなされた。

- ・何らかの形で補足情報が伝わるようにしておき、通機会がこういう状況にあると分かるようにしたほうが良い。
- ・補足情報のようなものは、例えば総会報告の通知に入れることで周知できるかもしれない。
- ・Q. 目黒会のグループ会は、どういう形態なのか。名簿を提出したり、お金を支払ったりする必要はあるのか。
- ・A. 目黒会は各グループの活動に規制をすることはない。逆に活動費の補助をしている。メリットとしては目黒会の広報活動の中で利用できるものがあるので、参加しておいたほうが良い。名簿の提出も義務がない(個人情報が厳しいこともあるので)。

11. 第 11 期(2022-2025 年度)通機会予算案

会計担当の K 学内幹事より、資料に基づき第 11 期予算案の説明がなされた。支出の新項目として新体制移行活動費と田中榮賞記念基金支援が追加されているものである。田中榮賞記念基金支援について、マイナスになるという記述が資料下部にあり、混乱を招く恐れがあることから削除する提案が参加者からなされた。議論の結果、資料「第 11 期(2022-2025 年度)通機会予算案」から文言「※第 9 期田中榮賞の資産がマイナスになります。通機会からの第

9 期の赤字補填を行い、事業終了となります。」および文言「事業終了時には、残金を通機会一般会計へ返金する」を削除し、その他の部分は資料の原案通り承認された。

また、関連して以下のような意見・質問がなされた。

・Q. 収入のところで新規会員（会費）0 ということだが、今後は新しい会員は一切入らないということなのか。

・A. 時代の変化とともに入れるのが難しくなっている。学生はお金がなく指導学生とはいえお願いするのが難しい状況で、したとしても会費を払ってくれるという感じではない。会費を払う払わないに関わらず会員になってもらってだよりを送っている。会員ではあるがお金を払ってくれていない状態。

・Q. 会計の部分は分かったが、通機会として会員を増やす方針は議論してほしい。

・A. 今後の活動で大変重要なのでグループ会委員会で議論をしていく。

・Q. 支出の削減に最大限取り組んでいるというニュアンスを含めるべき。

・A. コスト削減は数期前から行っている。購入先や業者の変更等。これからさらにコストを下げるとすれば、お茶会の経費。その辺りで検討しようと考えている。

・Q. 田中栄賞の候補者を選択・推薦（リストアップ）する方法と今後の方針はどうなのか。

・A. 候補者のリストアップは専攻会議資料を参照して行っている。最近の授賞式は閑散としている。指導教員も来ないことが多くなっている。学内幹事がいる間は田中栄賞に関する業務ができるが、いなくなるとできない。11 期はできるのでやる予定。その後は方針による。これについては、引き続きグループ会委員会で考えていく。

12. 閉会の辞

M 議長より閉会の挨拶がなされた。

以上